

中小企業景況調査報告書

平成28年7～9月期実績

平成28年10～12月期予測

この調査は、商工会の経営改善普及事業の指導資料にするため、国・道の指定事業として、全国商工会連合会を中心に昭和54年から全国一斉に実施しているものである。

調査要領と、北海道分の調査対象20商工会の回答企業数は、次のとおりである。

1. 調査要領

(1) 調査対象時期等

- ①調査対象時期：平成28年7～9月期の実績(9月見込) 平成28年10～12月期見通し
- ②調査期間：平成28年8月20日～9月1日 ※調査時点は平成28年9月1日

(2) 調査方法

- ①商工会の経営指導員等による訪問面接調査
- ②調査対象企業の抽出は、業種・規模等の有意抽出法による。

(3) 調査対象商工会

- ①人口～9,999人 ··· 新篠津村、せたな、ニセコ町、積丹町、北竜町、南富良野町、遠別、枝幸町、安平町、鹿追町、足寄町、弟子屈町
- ②人口10,000～29,999人 ··· 七飯町、斜里町、湧別町、新ひだか町、別海町
- ③人口30,000人～(市に含まれる) ··· 北斗市、いわみざわ、あさひかわ

(4) 回答企業数

業種	調査企業数	回答企業数	回答率	業種	調査企業数	回答企業数	回答率
製造業	52	49	94.2%	小売業	89	81	91.0%
建設業	50	43	86.0%	サービス業	109	101	92.7%
合計				合計	300	274	91.3%

(5) D I = ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)とは？

前年同期と比べて、「増加(上昇・好転)」 - 「減少(低下・悪化)」の回答企業の比率。

例えば、売上高が前年同期比で「増加」回答企業50%、「不变」回答企業30%、「減少」回答企業20%の場合、D Iは $50-20=+30$ となり、売上高の面では「増加(上昇・好転)」気運であることを表わす。

2. 全業種の業況（前年同期比、前期比の推移）※D I値のみ

業種	前年同期比		前 期 比					
	今期	来期 見込	H27.7-9	H27.10-12	H28.1-3	H28.4.6	今期	来期 見込
製造業	▲ 2.2	▲ 16.3	▲ 23.4	▲ 15.6	▲ 41.4	▲ 4.2	▲ 2.4	▲ 2.2
建設業	▲ 11.6	▲ 4.7	▲ 4.2	4.5	▲ 20.0	▲ 8.9	2.7	0.0
小売業	▲ 41.8	▲ 33.8	▲ 31.6	▲ 33.7	▲ 52.0	▲ 27.7	▲ 41.1	▲ 35.1
サービス業	▲ 36.0	▲ 32.0	▲ 19.4	▲ 25.8	▲ 35.7	▲ 24.4	▲ 30.1	▲ 36.8

3. 北海道内商工会地域の状況

製造業

主要景況項目の推移（前年同期比、前期比の推移）

項目	状況	前年同期比		前 期 比				
		今期	来期見込	H27.10~12	H28.1~3	H28.4~6	今期	来期見込
業況	好転した	17.4	9.3	13.3	4.9	22.9	14.3	20.0
	不変	63.0	65.1	57.8	48.8	50.0	69.0	57.8
	悪化した	19.6	25.6	28.9	46.3	27.1	16.7	22.2
	D・I	▲ 2.2	▲ 16.3	▲ 15.6	▲ 41.4	▲ 4.2	▲ 2.4	▲ 2.2
売上(加工)額	増加した	28.3	20.8	37.5	14.6	44.0	31.9	
	不変	39.1	47.9	33.3	22.9	28.0	42.6	
	減少した	32.6	31.3	29.2	62.5	28.0	25.5	
	D・I	▲ 4.3	▲ 10.5	8.3	▲ 47.9	16.0	6.4	
資金繰り	好転した	4.4	0.0	8.5	0.0	10.0	4.3	
	不変	75.6	83.0	74.5	75.0	78.0	80.5	
	悪化した	20.0	17.0	17.0	25.0	12.0	15.2	
	D・I	▲ 15.6	▲ 17.0	▲ 8.5	▲ 25.0	▲ 2.0	▲ 10.9	
原材料仕入単価	上昇した	22.7	24.4					
	不変	75.0	73.4					
	低下した	2.3	2.2					
	D・I	20.4	22.2					
採算(経常利益)	好転した	14.9	6.3					
	不変	57.4	64.5					
	悪化した	27.7	29.2					
	D・I	▲ 12.8	▲ 22.9					

○ 設備投資実施・来期計画と投資対象

【今期実施内容】

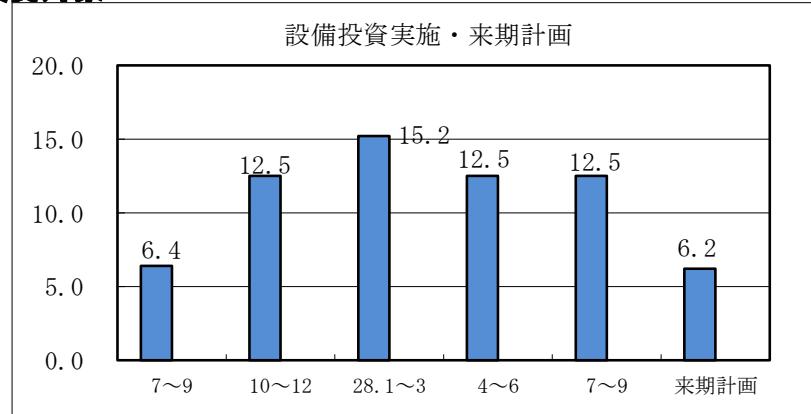
回答48事業所の内、6事業所(12.5%)が実施。

●生産設備=6事業所

【来期計画内容】

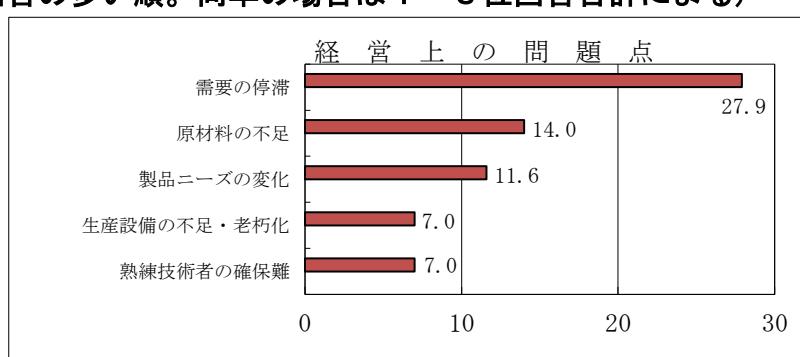
回答48事業所の内、来期に3事業所(6.2%)が計画。

●生産設備=2事業所、●車両・運搬具、OA機器=各1事業所



○ 今期の経営上の問題点(1位回答の多い順。同率の場合は1~3位回答合計による)

「需要の停滞」は前回と同様今回も1位だが1.6P減。前回番外の「原材料の不足」と「熟練技術者の確保難」が今回2位と5位へ。前回2位「生産設備の不足・老朽化」が今回4位、前回3位「製品ニーズの変化」は今回も同位。前回4位「原材料価格の上昇」と5位「人件費の増加」が今回では番外となった。



建設業

主要景況項目の推移（前年同期比、前期比の推移）

項目	状況	前年同期比		前 期 比			今期	来期見込
		今期	来期見込	H27.10~12	H28.1~3	H28.4~6		
業況	好転した	16.3	16.7	17.8	8.9	8.9	21.1	11.9
	不変	55.8	61.9	68.9	62.2	73.3	60.5	76.2
	悪化した	27.9	21.4	13.3	28.9	17.8	18.4	11.9
	D・I	▲11.6	▲4.7	4.5	▲20.0	▲8.9	2.7	0.0
完成工事(請負工事)額	増加した	27.9	11.6	29.8	16.7	35.6	43.9	
	不変	44.2	55.8	48.9	29.2	33.3	41.5	
	減少した	27.9	32.6	21.3	54.1	31.1	14.6	
	D・I	0.0	▲21.0	8.5	▲37.4	4.5	29.3	
資金繰り	好転した	14.3	2.4	4.4	6.3	6.7	12.2	
	不変	71.4	75.6	86.7	79.1	91.1	82.9	
	悪化した	14.3	22.0	8.9	14.6	2.2	4.9	
	D・I	0.0	▲19.6	▲4.5	▲8.3	4.5	7.3	
材料仕入単価	上昇した	38.1	26.8					
	不変	61.9	70.8					
	低下した	0.0	2.4					
	D・I	38.1	24.4					
採算(経常利益)	好転した	9.5	9.5					
	不変	64.3	61.9					
	悪化した	26.2	28.6					
	D・I	▲16.7	▲19.1					

○設備投資実施・来期計画と投資対象

【今期実施内容】

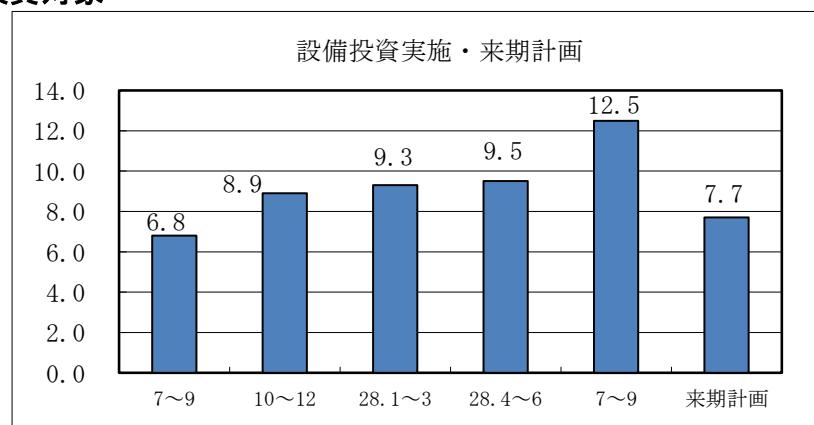
回答40事業所の内、5事業所(12.5%)が実施。

●土地、建物、車両・運搬具、OA機器=各2事業所

【来期計画内容】

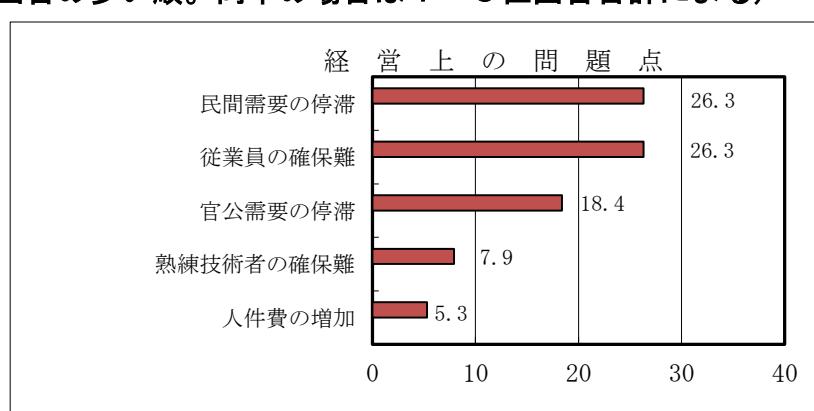
回答39事業所の内、来期は3事業所(7.7%)が計画。

●土地、建物=各2事業所、●建設機械、付帯施設、OA機器=各1事業所



○今期の経営上の問題点(1位回答の多い順。同率の場合は1~3位回答合計による)

今回の1位から4位までは、前回も4位までに入っていたが、前回1位の「官公需要の停滞」が8.4P減少して今回3位となった。また、前回4位「従業員の確保難」が14.1P増で今回2位となっている。前回番外の「人件費の増加」が今回5位となり、前回5位の「材料価格の上昇」が番外となつた。



小売業

主要景況項目の推移（前年同期比、前期比の推移）

項目	状況	前年同期比		前 期 比			
		今期	来期見込	H27.10~12	H28.1~3	H28.4~6	今期
業況	好転した	7.6	6.5	3.6	1.4	5.6	4.1
	不変	43.0	53.2	59.1	45.2	61.1	50.7
	悪化した	49.4	40.3	37.3	53.4	33.3	45.2
	D・I	▲ 41.8	▲ 33.8	▲ 33.7	▲ 52.0	▲ 27.7	▲ 41.1
売上額	増加した	12.3	6.2	18.4	9.3	21.0	19.8
	不変	35.8	49.4	35.6	19.8	28.4	35.8
	減少した	51.9	44.4	46.0	70.9	50.6	44.4
	D・I	▲ 39.6	▲ 38.2	▲ 27.6	▲ 61.6	▲ 29.6	▲ 24.6
資金繰り	好転した	4.9	3.8	2.3	0.0	3.8	4.9
	不変	70.4	73.7	72.1	64.7	74.9	70.4
	悪化した	24.7	22.5	25.6	35.3	21.3	24.7
	D・I	▲ 19.8	▲ 18.7	▲ 23.3	▲ 35.3	▲ 17.5	▲ 19.8
商品 仕入単価	上昇した	25.9	15.0				
	不変	60.5	70.0				
	低下した	13.6	15.0				
	D・I	12.3	0.0				
採算(経常利益)	好転した	6.3	5.0				
	不変	42.5	51.2				
	悪化した	51.2	43.8				
	D・I	▲ 44.9	▲ 38.8				

○設備投資実施・来期計画と投資対象

【今期実施内容】

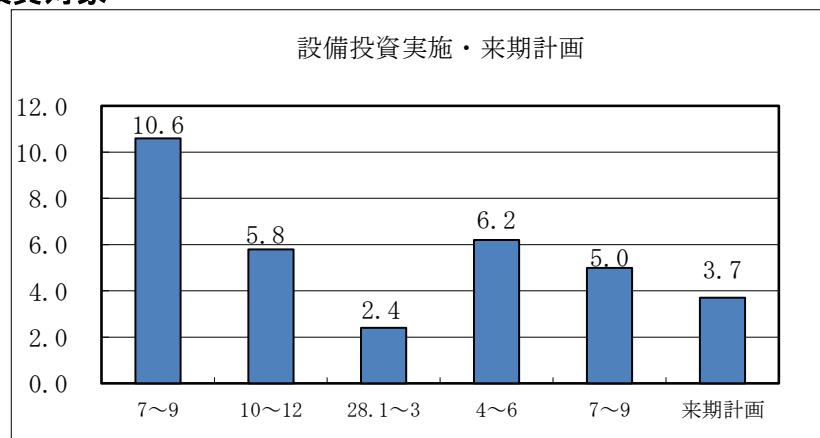
回答80事業所の内4事業所(5.0%)が実施。

●車輌・運搬具=2事業所、●付帯施設、OA機器、その他=各1事業所

【来期計画内容】

回答80事業所の内、来期に3事業所(3.7%)が計画。

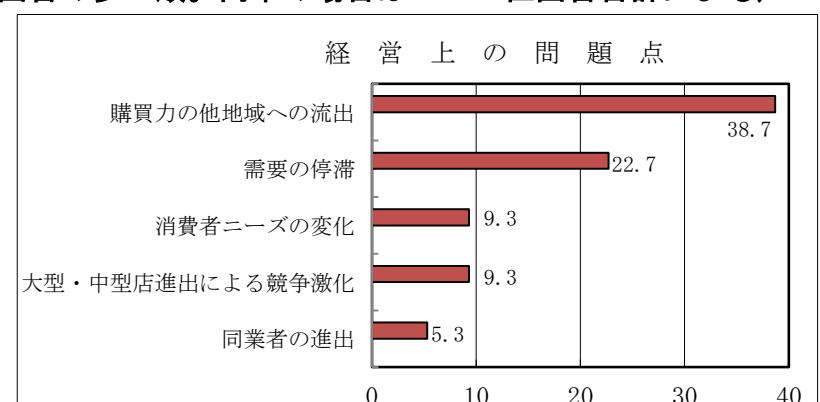
●車輌・運搬具、付帯施設、その他=各1事業所



5

○今期の経営上の問題点(1位回答の多い順。同率の場合は1~3位回答合計による)

今回の1位から4位までは、前回も4位までに入っていた。最近数年において5位以内に入っていた「同業者の進出」が今回5位となった反面、5位以内常連であった「店舗の狭隘・老朽化」が今回番外となった。



サービス業

主要景況項目の推移（前年同期比、前期比の推移）

項目	状況	前年同期比		前 期 比			今期	来期見込
		今期	来期見込	H27.10~12	H28.1~3	H28.4~6		
業況	好転した	4.0	1.0	4.1	1.1	4.3	2.2	2.1
	不変	56.0	66.0	66.0	62.1	67.0	65.5	59.0
	悪化した	40.0	33.0	29.9	36.8	28.7	32.3	38.9
	D・I	▲36.0	▲32.0	▲25.8	▲35.7	▲24.4	▲30.1	▲36.8
売上(収入)額	増加した	8.0	7.9	7.0	10.4	20.0	19.0	
	不変	42.0	56.5	42.0	42.7	42.9	50.0	
	減少した	50.0	35.6	51.0	46.9	37.1	31.0	
	D・I	▲42.0	▲27.7	▲44.0	▲36.5	▲17.1	▲12.0	
資金繰り	好転した	2.0	3.0	2.1	1.0	4.0	3.0	
	不変	78.0	81.0	79.1	70.9	80.8	82.9	
	悪化した	20.0	16.0	18.8	28.1	15.2	14.1	
	D・I	▲18.0	▲13.0	▲16.7	▲27.1	▲11.2	▲11.1	
仕入単価(材料等)	上昇した	25.7	19.2					
	不変	70.3	77.8					
	低下した	4.0	3.0					
	D・I	21.7	16.2					
採算(経常利益)	好転した	4.0	4.0					
	不変	61.3	64.0					
	悪化した	34.7	32.0					
	D・I	▲30.7	▲28.0					

○設備投資実施・来期計画と投資対象

【今期実施内容】

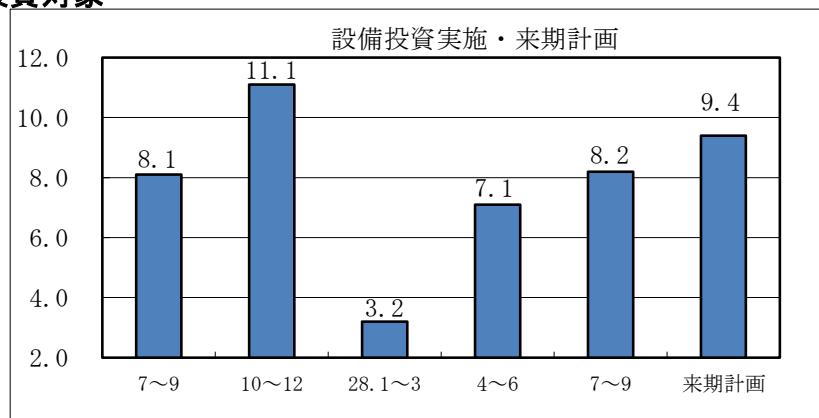
回答98事業所の内、8事業所(8.2%)が実施。

●その他=3事業所、●建物=2事業所、●土地、サービス、車両・運搬具、付帯施設=各1事業所

【来期計画内容】

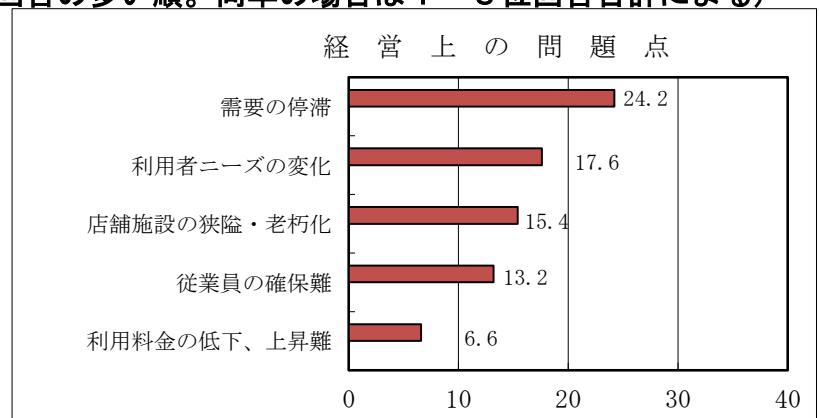
回答96事業所の内、9事業所(9.4%)が計画。

●その他=4事業所、●サービス=3事業所、●建物、車両・運搬具=各1事業所



○今期の経営上の問題点(1位回答の多い順。同率の場合は1~3位回答合計による)

前回1位「利用者ニーズの変化」が3.3P減で今回2位へ、前回2位「需要の停滞」が3.3P増で今回1位となった。また、前回5位の「従業員の確保難」が4.4P増で4位に上昇。「利用料金の低下、上昇難」が前回番外から今回5位となった。また、前回3位「材料等仕入単価の上昇」が今回は番外となつた。



4. 全国と対比した主要景況項目の動向

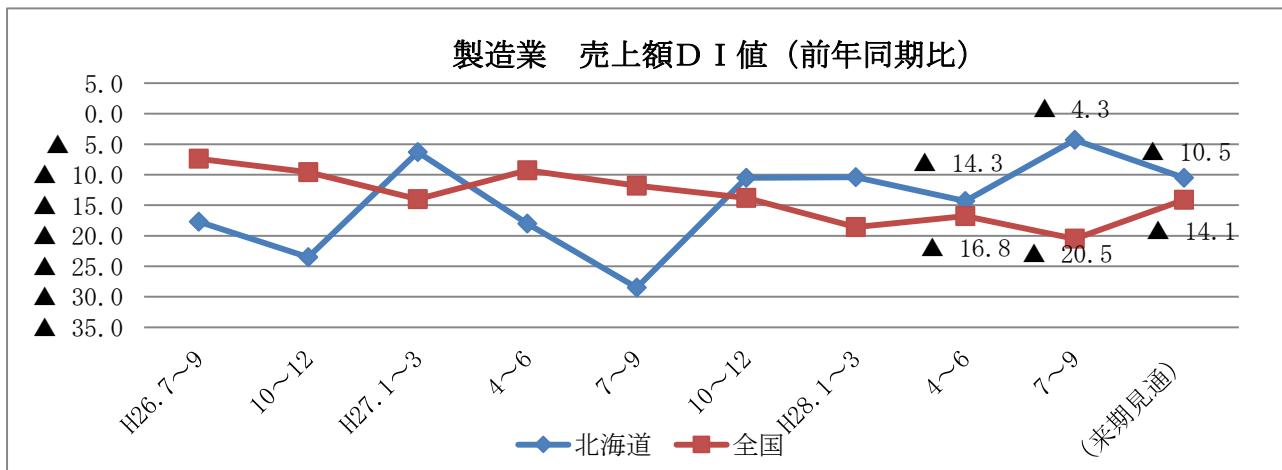
-前年同期比D I-

【各調査時期における前年同期比の「増加(上昇・好転)」回答企業比率 - 「減少(低下・悪化)」回答企業比率】

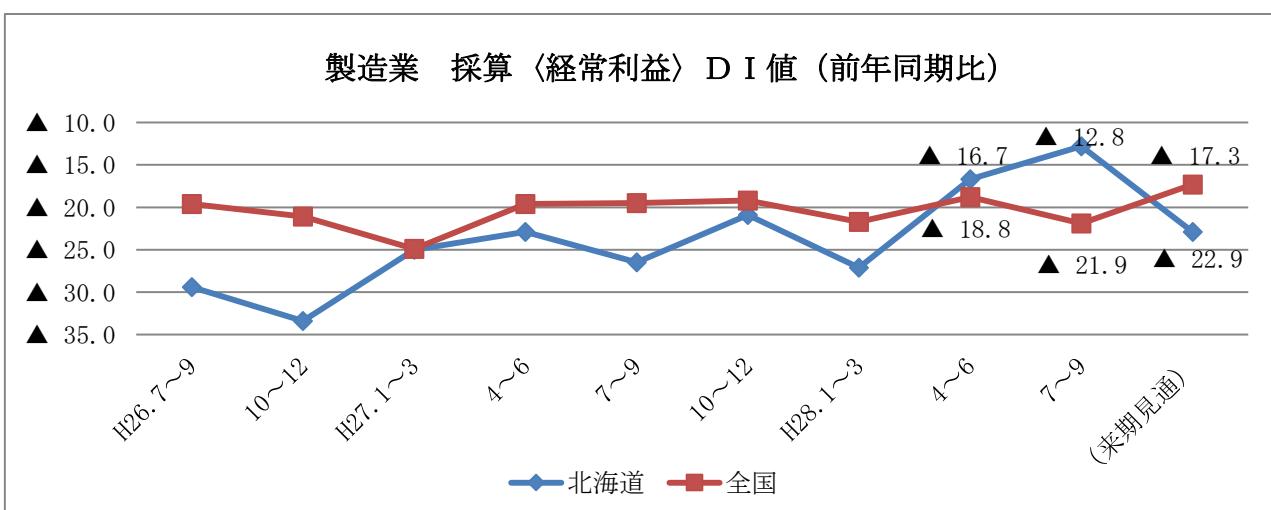
製造業 ≪最近(前期調査⇒今期調査⇒来期見込)の各前年同期比▲DI値(悪化)の増減≫

- 北海道：今期売上額▲DI値は10P減少⇒来期6.2P增加見込。今期採算▲DI値は3.9P減少⇒来期10.1P增加見込。今期資金繰り▲DI値は大幅増(15.6P)⇒来期更に増加見込(1.4P)。
- 全国：北海道とは逆パターンで、今期は売上額▲DI値も採算▲DI値も増加⇒来期はそれぞれ減少見込。資金繰り▲DI値は今期から来期見込まで、ほぼ横這い傾向である。

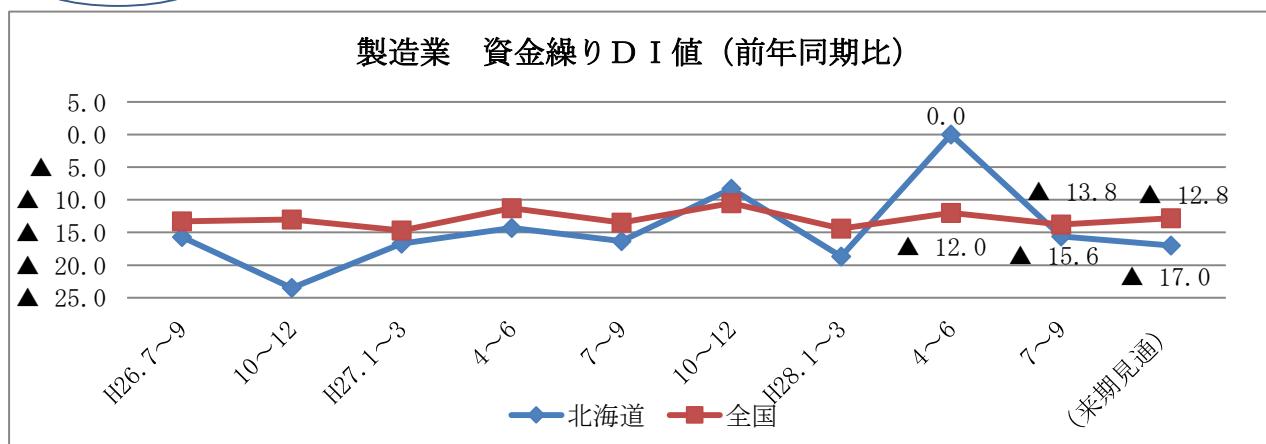
売上額



採 算



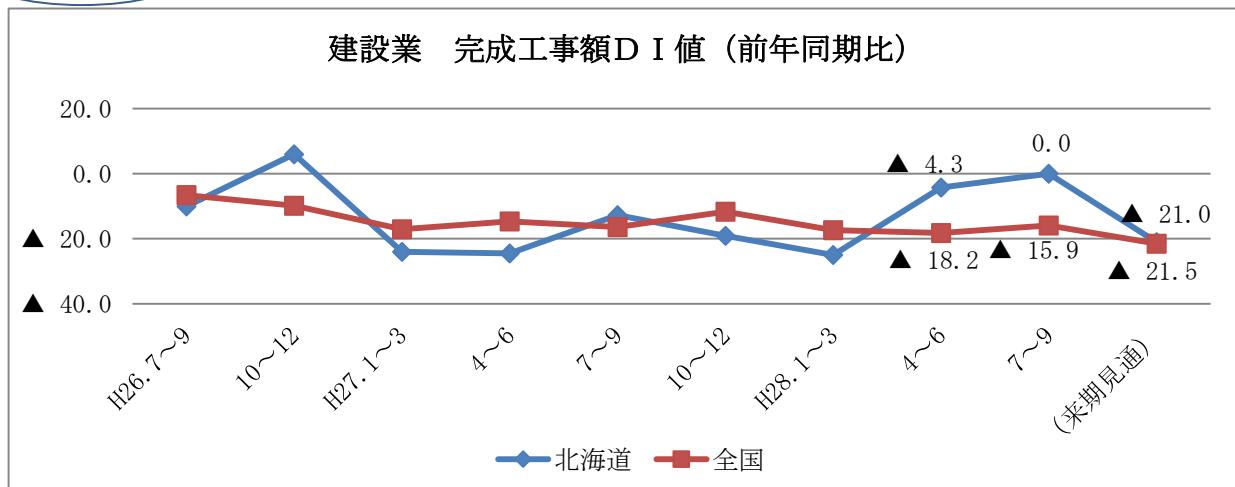
資金繰り



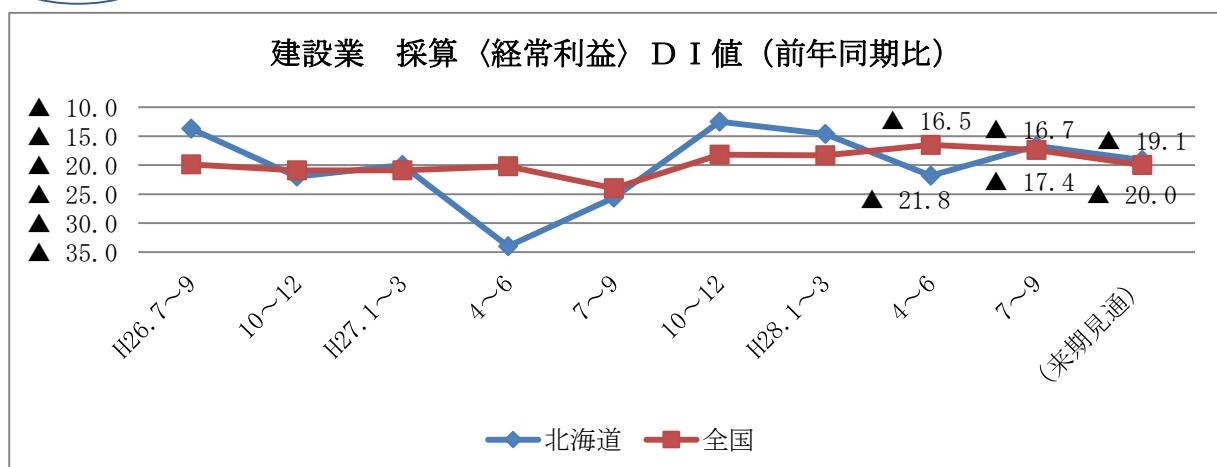
建設業 <最近(前期調査→本期調査→来期見込)の各前年同期比▲DI値(悪化)の増減>

- 北海道：本期は完成工事額▲DI値が4.3P減少、採算▲DI値も5.1P減少⇒来期は21.0P(大幅增加)見込、2.4P增加見込。資金繰り▲DI値は本期4.3P増加⇒来期19.6P(大幅増加)見込。
- 全国：本期は完成工事額▲DI値が2.3P減少⇒来期5.6P增加見込、本期採算▲DI微増(0.9P)⇒2.6P增加見込。本期資金繰り▲DI値は微増(0.7P)⇒来期5.0P增加見込。

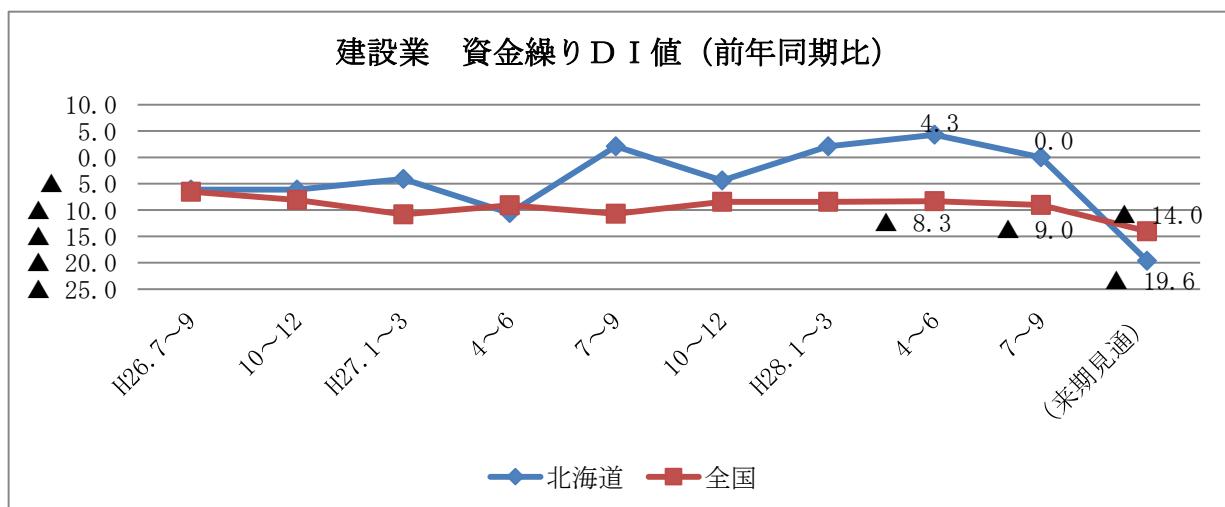
完成工事額



採 算



資金繰り

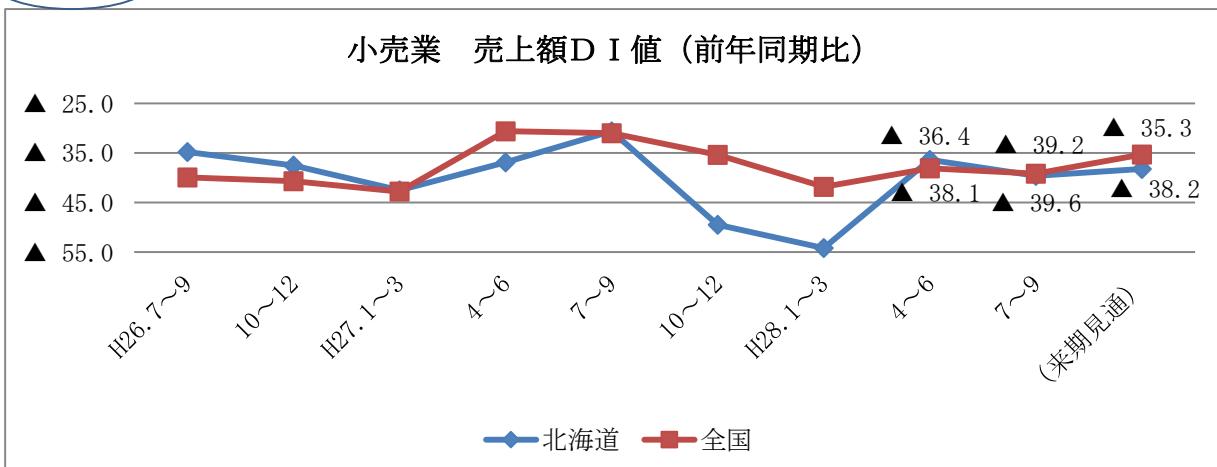


小売業 <最近(前期調査⇒今期調査⇒来期見込)の各前年同期比▲DI値(悪化)の増減>

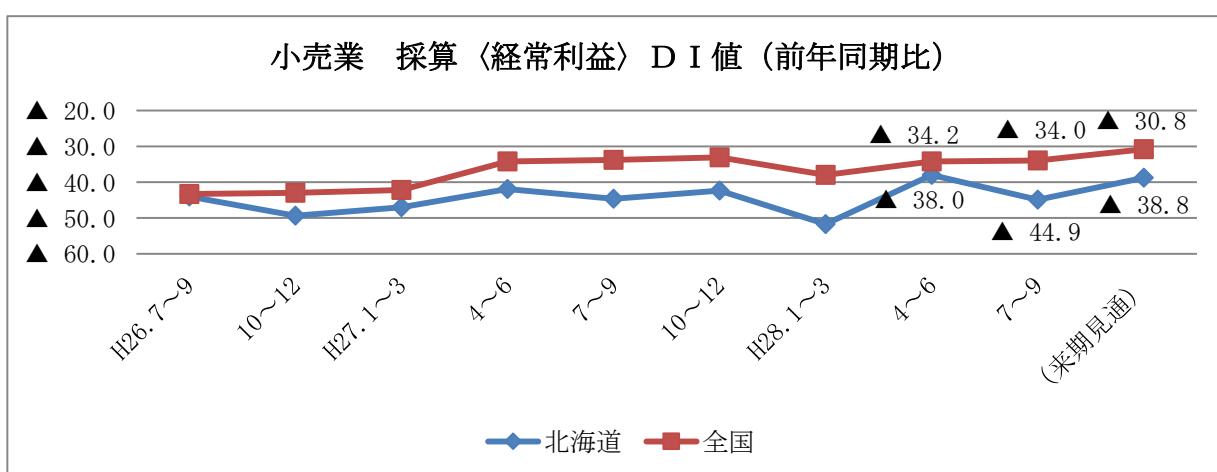
●北海道：今期売上額▲DI値は3.2P増加⇒来期1.4P減少見込。今期採算▲DI値は6.9P増加⇒来期6.1P減少見込。今期資金繰り▲DI値は7.6P減少⇒来期更に減少見込(1.1P)。

●全国：今期売上額▲DI値は1.1P増加⇒来期は3.9P減少見込。今期採算▲DI値は微減(0.2P)⇒来期3.2P減少見込。今期資金繰り▲DI値は1.4P増加⇒来期も微増(0.4P)見込。

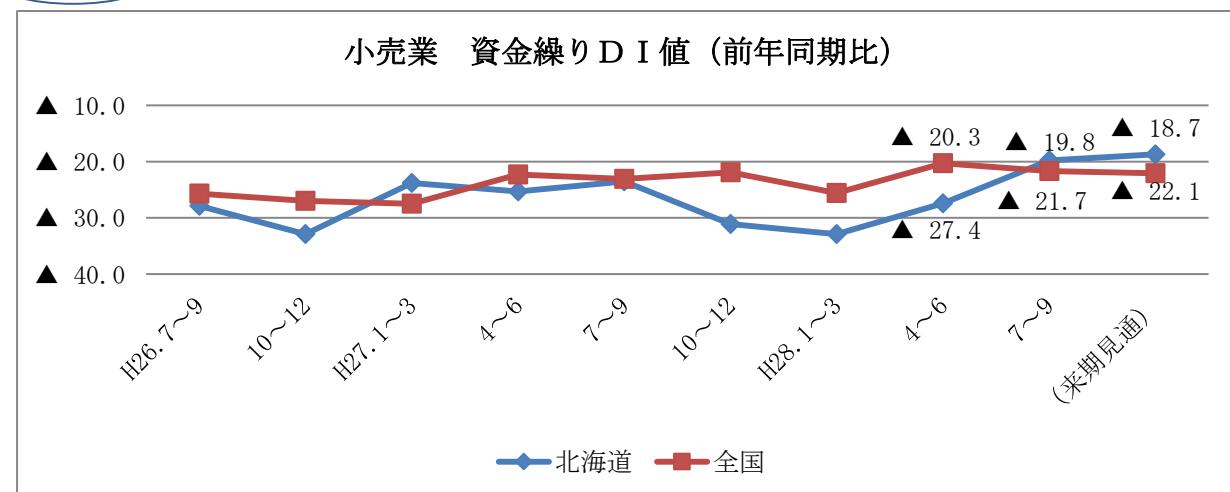
売上額



採 算



資金繰り



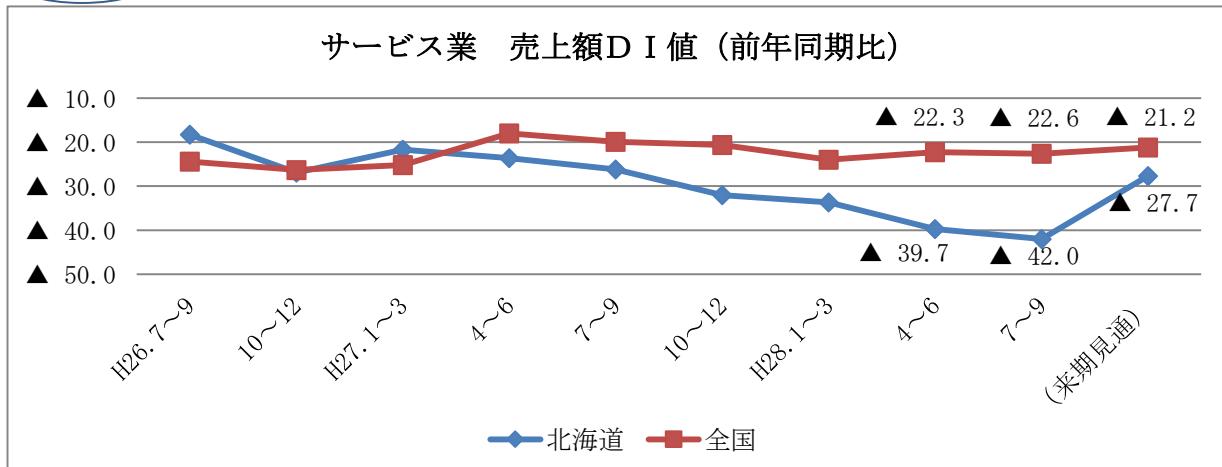
サービス業

«最近(前期調査⇒今期調査⇒来期見込)の各前年同期比▲DI値(悪化)の増減»

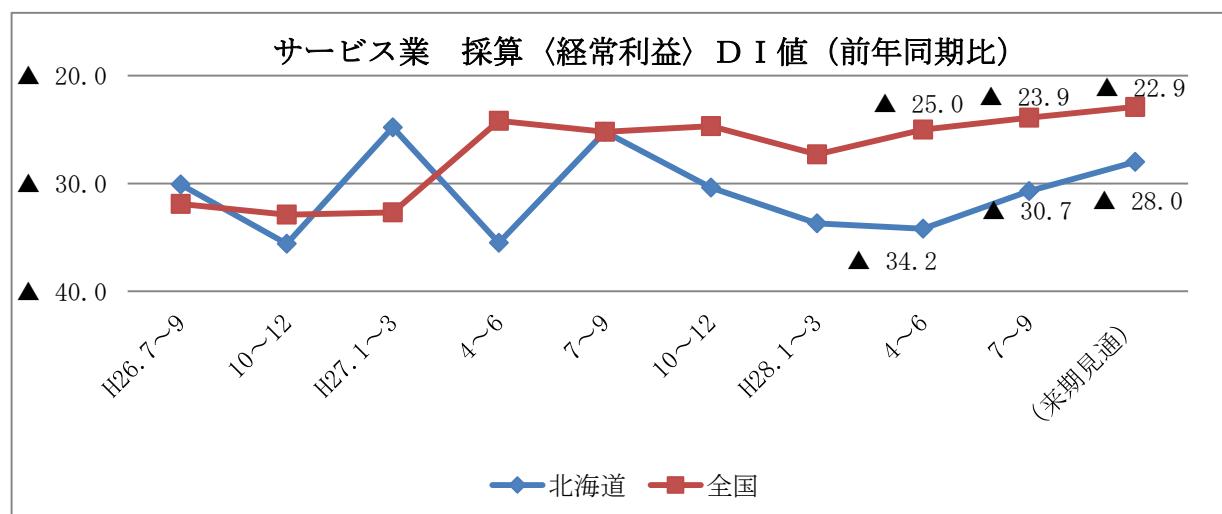
●北海道：今期売上額▲DI値は2.3P増加⇒来期は大幅減少(14.3P)見込。今期採算▲DI値は3.5P減少⇒来期も減少傾向(2.7P)。今期資金繰り▲DI値は微減(0.5P)⇒来期5.0P減見込。

●全国：今期売上額▲DI値⇒来期見込は横這い(0.3P増⇒0.6P減)。今期採算▲DI値は微減傾向(1.1P減⇒1.0P減)。今期資金繰り▲DI値⇒来期見込はほぼ横這い(1.0P増⇒0.3P減)。

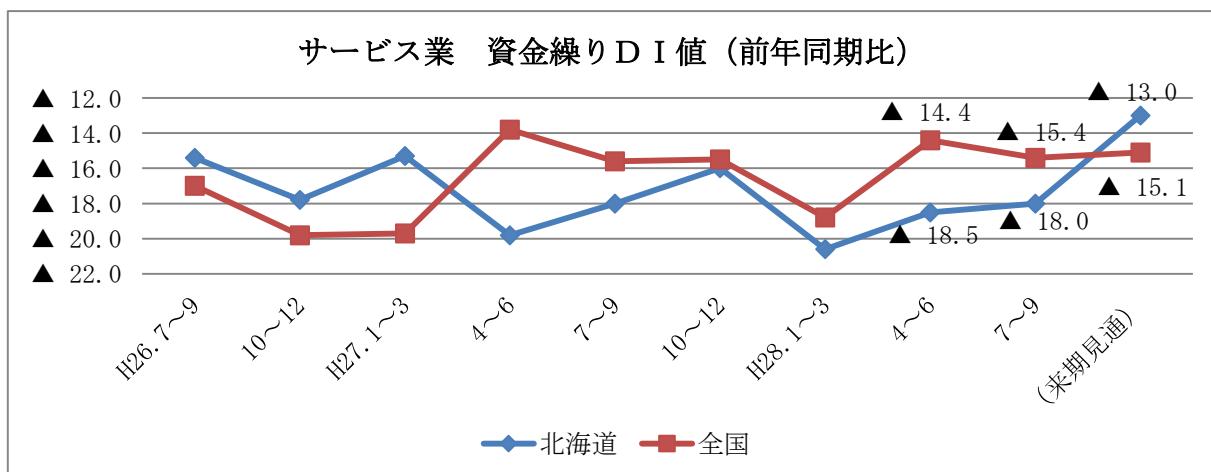
売上額



採 算



資金繰り



5. 自社の業況判断の背景について感じている事(調査対象企業の声)

業種	内容
製造業	<p>●生産設備の老朽化が進み、メンテナンスに費用をかけなければいけなくなってきたが、その費用に見合うだけの需要が期待できるかは不透明である。大型の設備投資は避け、身の丈に合った経営が必要である。●注文はあるものの、経営が成り立つくらいの売上げが継続的にならないと厳しいが、顧客の都合次第なので仕方がない。頑張ってやって行きたいと思う。●取引先の廃業、個人客の減少、加工を持ち込む人の減少、何一つ希望の持てる事がなく、厳しい状態にある。今を頑張れば良くなってくるのか?●消費者需要、売上げが一定になっている。●他市町村物件の受注が増加している。リスケ後は約定通りに返済しており、ここ数年の景況は好転しているが、設備投資の借入において金融機関の対応が厳しい。●売上げが上がらないのに賃金ばかり上がり、この先不安。●最低賃金の上昇は、扶養内で働いてるパート従業員たちの「時間が・・」または「日数が・・」等の声に対して調整しなければならず、それによりパート人数の確保が大変困難になってきている。●前浜の魚が不漁で、加工原魚が確保できない。工場の稼動が困難になってきている</p>
建設業	<p>●業況としては、下請業者（従業員）不足に伴う工事施工の懸念（遅れ）が予想される。●8月末完成の賃貸アパート（8戸）の入居がまだ成立しておらず、当初計画とずれている。●第1四半期の選挙における工事スタート遅れの影響が、意外に後を引いている。工事の発注時期も重なることになり引合いが増加したが、更に台風の影響で工事の遅延もあった中、従業員の数も限られているため人材不足が問題である。●景況は良いが従業員確保が難しい状況だ。●国・道等の大型工事が発注されているが、一部の大手企業だけに集中しており、中小零細企業までには波及していないのが現状だ。人手不足、天候不良等の環境面での悪影響もあり、今後も不透明さが強まると思う。</p>
小売業	<p>●前年同期とほぼ同じ業績である。●各地区のイベントに流れて地元に人がいない。特に新幹線が来てから客数が少なくなった。当地区は新幹線とは関係なし。●急激な売上変化はないが、必要なもの以外の購入が少なく、需要の停滞を感じる。●特に変わりなし。●農業、観光、公共の地域経済循環性が見えない。その現状分析が見えてくれば、地域のプラス開発の具体策が明らかになる。これは商工、観光が連携して取り組むべきテーマである。●夏休みに入る頃から、大都市への流出の多さを感じる。●「選挙の年は不景気」と言うが、その通りである。また、天候不順も大いに関係していると思う。特にお盆を過ぎてからの暑さ、大雨、そして台風まで悪条件には事欠かない状況で、悩むばかりである。●地域経済の沈下や人口減で、売上が減少している。●購買力の低下、客単価の低下、人口減による売上低下。●新規事業のため売上げは増えているが、店舗での実売りは減。今後も同じと思われ、実店舗での営業は困難。●自店の取扱い商品を他店も取扱い始めるなど価格競争が起きており、収益率の低下や販売機会が減少している（3～4年前からの現象）。●6～8月の天候不順により、夏物衣料が良くない。</p>

- 当店の看板メニューの食材が輸入ストップ（鳥インフルエンザ）のため、客単価が減少した！輸入再開されれば回復するものと考える。●利用客数と客単価の減少が著しく、利益を圧迫している。●来店客数の減少に歯止めがかからず、増加しても減少分を賄いきれていない。
- 観光業の特性として各期に大きな格差があることは仕方ないと思うが、なるべく平準化をはかり、仕事量と売上げを安定させないと従業員の確保が難しい。●人口（客）の転出が多く、客全体の高齢化や死亡で来店が困難になったりする場合が増えている。どうすることも出来ない状況がこれからも続くと思う。自分の健康にも不安がある。●高齢化などで客が外出困難になってきている他、パーマやカラーを止めてカットのみになるなど、利用ニーズが変わった。
- 景気の低迷により固定客の来店頻度も低下し、売上減少の要因となっている。また、全体的にも来店頻度の低下と浮き沈みが極端な年となっている。●少しづつではあるが景気の回復はみられていると思う。馬のセリでは、昨年よりも良いと思う。農家（馬を含め）は全体的に良くなっている。●利用客層の高齢化で車を手離したり、減らしたりの傾向にある。若い人の需要の伸び悩み。●「固定資産税」が高すぎる。●共同イベントを実施するも自店の売上増につながっていない。●7～8月の天気が今ひとつで、客の来店間隔が長くなっているようで、お盆前の集客も悪いように感じる。9月以降は元に戻るだろうと思われる。●大きな変化はないが、悪天候での売上低下、小規模な機器修理や買い替え等が続き、悪化している感覚がある。
- 従業員の資質向上や管理体制の徹底が必要。